不妊治療終結を見据えた情報提供を通した看護介入の検討

小松原千暁[1]、澤辺麻衣子[1]，福田愛作[1]，森本義晴[2]
医療法人三慧会 IVF 大阪クリニック[1]，医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック[2]

【目的】不妊治療は必ず妊娠成立が保証されているわけではない。その為、カップルが不妊治療中であっても治療終結を想定した選択肢の情報提供を行い、将来を見据えた自己選択ができるよう支援する説明会を実施し、その成果と今後の看護介入の有り方について検討した。
【方法】治療中の女性またはカップル参加の患者 24 名に生殖医療専門医 1 名、不妊症看護認定看護師（以下 CN）2 名が参加し 2016 年 5 月に説明会を開催した。医師より「女性の妊孕性、着床前診断、不妊治療以外の選択肢、更年期治療」、CN より「卵子提供、養子縁組、夫婦ふたりの生活」についての情報提供後、参加者でディスカッションを行った。実施後に、情報の内容や収集希望時期、感想などについて匿名性を保持し倫理的配慮のうえ無記名でアンケート調査を実施した。
【結果と考察】アンケート回収率 54.1%、平均年齢女性 41.2 歳男性 38.7 歳、平均不妊期間 5 年 6 ヵ月、参加理由は「情報がほしかった」が 84.6%と情報収集目的が多かった。選択肢の情報は「聞いたことがある」40.4%「少し知っていた」36.5%であり、収集希望時期は治療前 61.5%、治療直後 21.4%であり、「治療前に他の選択肢があることで治療内容や期間などを決めて始められる」「もっと早い段階で知りたかった」などの意見があった。会に参加した感想では「情報を夫婦でよく考えて今後の事を考えたい」「情報を知ることで夫婦での治療が無駄ではなく、治療を辞める心の準備ができた」などの意見があった。本会参加により治療終結後の選択肢の想定が可能となり、個人や夫婦の家族観を深める機会となった。また、不妊治療開始時にその後の選択肢についても情報収集することで、より充実した不妊治療が実践できることが示唆された。
【結論】今後も定期的に情報収集の場を提供し、患者が不妊治療終結後の選択肢についても考える機会を持ち、安心して自己選択ができるよう支援を行っていきたい。